

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ

高垣 香菜 (人間総合科学研究科、基礎医学系免疫学研究室、製薬業界、研究職)

①就職活動を終えての感想

あっという間であった。

初めから製薬、食品系の研究職に絞っていたため、10月にWebエントリーを行い、1月から本格的に就職活動を始め、4月初旬に内々定を頂き就職活動を終えた。

ただ、たった4ヶ月であっても、研究活動と就職活動を両立させることは身体的にも精神的にも大変であった。

私の場合、研究活動に大きく傾いたまま就職活動を続けていたが、逆にそのことが功を奏したため第一志望の企業に内定を頂くことが出来たのだと思う。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

・自己分析

私は実際にエントリーシート(ES)を書かなければいけない段階で、自分のことが全く表現できないということに気が付いた。

- どういう人間なのか(長所、短所)
- どういう考えの元これまで生活してきたか(進路決定等)
- どういう経験をしてきたか(アルバイト等)

就職活動が本格化する前に、これまで自分が歩んできた道のりを良く思い出し、文章にしておくと思う。特に人間性については色々な人(友達、両親、先生)に聞いてみると自分では気が付いていなかったことが見えてくるかもしれない。

・Webテスト、テストセンター対策

いわゆる大企業は膨大な数の学生が受けるので、ESの提出とともにWebテストが実施されることが多い。

Webテストの内容は容易なものが多いので、単なる足切りの場合が多いと感じたが、普段使わない公式などを瞬時に思い出せる位にはしておかなければならない。多数の対策本が売っているので、用途や自分に合ったものを選ぶと良いと思う。

私は5年間、アルバイトで塾の講師をしていた経験が非常に役立ったため、ほとんど時間を費やさずに済んだ。

・TOEIC

多くの企業でTOEICなどの点数を記載する欄があった。

私は英語が大の苦手な人で、12月に一度だけ受けたTOEICは製薬系研究職の希望者が書けるような点数では無かった。そのため食品系では点数を記入していたが製薬系では無記入のまま提出していた。

内定先の企業の最終面接で「みんなTOEIC900点とか書いている中、君だけ無記入なのだけだ。」と言われた時は心臓が止まる思いがした。

TOEICで高得点を取っておくことは必要条件ではないと思うけれども、TOEIC(ごときで)チャンスを逃すことの無いようにしっかりと準備しておくべきだと思った。

③生物学類の教育(広く生物学教育)を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種。または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

基本的にどんな業界、職種であっても本人の意思があれば受け入れられると思う。

ただ職種によっては応募条件が修士卒以上であったり、逆に学部卒のみであったりする。特に専門性が重視される研究職は修士卒が絶対条件である場合がほとんどであった。

④就職活動中にとった戦略について

・ES

私はES戦略を大きく間違えたと思う。常に提出締切り直前に書いていた。特に1月は毎回速達で提出する自転車操業のような状態であった。

ESはとにかく早めに提出すること。引き出しに寝かせておいても何も良いことはない。

・面接

基本的な事だが、相手の目を良く見てはっきりと端的に会話すること。また等身大の自分を相手に伝えること。自分を良く見せようとしても、見抜かれると思う。

【製薬系研究職】

研究職の面接は2回しかなかった。企業によって面接構成や構成員は異なるが、概ね以下のような内容であった。

1次面接: 研究職者と人事担当

研究プレゼンに加え人間性など全てを審査される。

研究についてのディスカッションが多く、内容というよりは考え方、自主性など研究職者として使えるかが試されていたと思う。面接官は最大7名、時間は最長で2時間であった。

最終面接: 研究本部長と人事部長

一次面接の2,3日後に行われた。入社する意志があるのかを確認するとともに、再度人間性を見られたと思う。

実質的には一次面接の通過が内々定という感じであった。

⑤生物学類教育に望むこと

視野を広げられるような教育。

⑥将来の抱負

医薬品の上市に貢献し、一人でも多くの患者さんを笑顔にすること。